

学校経営推進費 評価報告書（１年め）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立西浦支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信 ・ 学校教育自己診断における該当項目の肯定率の向上
計画名	「知的障がいのある生徒の農福連携（ぶどう栽培における職業教育・キャリア教育）」

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	１ 人との関わりを大切にし、自己有用感を高め、生徒の社会的自立をめざす （１）社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実 （２）職業教育における地域連携による生徒の「はたらく」意欲の向上と社会参加 （３）農福連携による校内でのぶどう栽培の実現 （４）一人ひとりに応じたよりよい進路実現 （６）一人ひとりの心と体を大切にする全校一貫したキャリア教育
事業目標	○学校敷地内にビニルハウスを建設し、体への負担が少なく高品質なぶどう生産がしやすい新手法（南大阪では初の取組み）でぶどう栽培を行い、農業大学校との共同研究として手法の効果を検証する。その中で技術の習得を促すとともに、すべての児童生徒にとって分かりやすいテキスト作成の方法を確立する。 ○ぶどうの栽培や販売などの活動を通して、小学部・中学部・高等部で一貫したキャリア教育を展開する。またシンポジウム等のチラシは本校高等部生徒が授業の一貫で作成し、キャリア教育の一環とする。 ○農家や福祉事業所、企業等に向けてシンポジウムを開催し、大阪公立大学・府立環境農林水産総合研究所・農業大学校と西浦支援学校で取り組んでいる農福連携のネットワークを広げ、本校卒業生がぶどう栽培を通して地域で雇用され活躍するための条件整備や採算性を向上させる栽培・経営手法について情報共有する。 ○ぶどう栽培や農作業に適性のある生徒の、地域農業産業への就労を実現する。
整備した 設備・物品	パイプハウス、農場電気設備、レーザーカラープリンター、収穫物運搬貯蔵用カゴ、薬品保存用冷蔵庫、iPad mini（本体・防水ケース）
取組みの 主担・実施者	主 担：首席 実施者：進路担当、農業担当
本年度の 取組内容	①教員１人が短期プロ農家養成研修を受講し、その成果をマニュアルにまとめた。年度末に教員間で共有し、栽培技術を向上させる予定である。 ②農業大学校にて高等部生徒約１０人がぶどう栽培実習を行い、生徒がぶどう栽培の基礎技術を習得するとともに、本校生徒にとって効果的な指導方法について農業大学校教員と検討した。 ③ビニルハウスを整備し、鉢植えで生育させていたぶどう苗をビニルハウス内に植え替えて、シャインマスカットの栽培を開始した。 ④購入したレーザーカラープリンターでチラシやポスターを印刷・配布してシンポジウム参加を呼びかけ、５０人以上の方に参加いただけた。本校の取組みの方向性を周知すると

	もに、地域のぶどう農家ともつながることができた。4月から地域のぶどう農家の圃場で実習を行う打ち合わせも進んでいる。
成果の検証方法 と評価指標	①短期プロ農家養成研修の内容で本校の実習に応用できる内容をまとめ、教員向けマニュアルを作成する。 ②実習参加生徒とその保護者に対してアンケートを実施し、「職業の授業に満足している」の肯定率を80%以上とする。 ③ビニルハウス建設後に本校教員と高等部生徒で新手法のぶどう棚を組み上げ、枯らすことなくぶどう苗を生長させて栽培実習を開始し、高等部生徒60名以上がぶどう栽培に関わる機会を設け、テキストの見直しを行う。 ④シンポジウムを開催して50名以上の参加者に対して本校の取組みを紹介し、複数の農家や事業所との連携を開始する。 ⑤職業新聞および学校ホームページ等で農福連携の取組みを年5回以上情報発信する。
自己評価	①短期プロ農家養成研修の受講内容をまとめ、教員向けマニュアルを作成した。…(○) ②実習参加生徒本人とその保護者に対してアンケートを実施した。「職業の授業に満足している」の肯定率は生徒91.7%、保護者100%であり、目標の80%を上回った。…(◎) ③安全面からぶどう棚は業者に組み上げてもらった。昨年度から学校敷地内で育てているぶどうは枯れることなく生長しており、栽培実習を開始することができた。ビニルハウス建設と電気設備工事が遅れたため、高等部生徒60人以上がぶどう栽培に関わる機会を設け、テキストの見直しを行うことについては、次年度に先送りとなった。収穫物運搬保管用カゴ、薬品保存用冷蔵庫も次年度から活用する予定である。……………(△) ④シンポジウムを開催して50人以上の参加者に対して本校の取組みを紹介することができた。現時点で5件の農家や事業所と具体的な実習の話を進めている。……………(◎) ⑤職業新聞および学校ホームページ等で農福連携の取組みを年14回発信し、年5回の目標を上回った。……………(◎)
次年度に向けて	①先送りになっている学習テキストの改訂を行い、それを活用して農業大学校でぶどう栽培実習を行うとともに本校ビニルハウスでぶどう栽培から収穫まで行う。また収穫作業後にテキスト作成方法及び新栽培方法について再検討を行う。 ②学校周辺地域のぶどう栽培を行う農家、事業所での実習を5回以上実施する。農家の方々の助言を受け、ぶどう栽培で活躍するために身につけるべき力を育む。 ③シンポジウムを開催して本事業の取組みの進捗状況を周知するとともに、農業や福祉に関わる専門家を招き、本事業の取組みについて助言を受ける。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	1,475,259	円
----------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費	1	シンポジウム講師料	¥90,000	1	¥90,000
		2				
		3				
					小計	90000
	2 旅費	1	シンポジウム講師旅費	¥20,420	1	¥20,420
		2				
		3				
					小計	20420
	3 消耗需用費	1	レーザーカラープリンター	¥54,000	1	¥54,000
		2	収穫物運搬貯蔵用カゴ	¥1,392	5	¥6,960
		3	薬品保存用冷蔵庫	¥13,301	1	¥13,301
		4	iPad mini 第6世代 64GB	¥77,220	1	¥77,220
		5	iPad mini 防水ケース	¥4,235	1	¥4,235
					小計	¥155,716
	8 備品購入費	1	ビニルハウス（パイプハウス）	¥773,523	1	¥773,523
		2				
		3				
					小計	773523
	9 工事請負費	1	電気設備工事	¥435,600	1	¥435,600
		2				
		3				
					小計	435600
					合計	¥1,475,259